

2003年10月例会レジュメ

10-1 林 洋 (機械部門) 技術者がリードすべき時代である Hiroshi Hayashi

現在は、コンドラチェフの波の底、シュンペーターが産業基盤の技術が組み変わる時期と説明している時期であり、技術者が口を出すことが国益に適う時期である...という氏の見解が発表された。技術者が社会に強くコミットする具体例として、氏が法曹界に向かって発信した「工学鑑定からみた・むちうち症裁判の研究」「交通事故『過失割合』の研究」(いずれも技術書院発行)および、「アルミダイキャスト製ブレーキ・ペダル台破壊による自動車事故の鑑定分析例」の紹介がなされた。内向きの現状の技術士会の姿勢について痛烈な批判がなされ、もっと外向きになって自己主張をする体制が必要であることが強調された。特に、hpは、内輪の連絡の為のものとするのではなく、会員の事務所を全国的にリンクし、クライアントに判り易いキーワードを用意し、ニーズに合わせて最適の会員をスムーズに紹介し得る、外向き、クライアント向けのhpを併設すべきであると強調された。この主張は多くの共感を受けた。これは、特に、地方会員に大きなメリットを齎し、会員増加の強力な仕掛けにもなるであろう。

Various cases of technical consultation for motor vehicle accidents were introduced. Through the consultation, the lecturer has published the opinions to the judicial world based on the technical view. He insisted engineers should publish opinions to the outside, and also utilize Home Page of IPEJ to communicate with the outside people.

10-2 鈴木 裕 (機械・総合監理部門) 自動車技術と自動車ラリーについて Yutaka Suzuki

自動車メーカーで変速機などの開発に関わった経験、及び、国際ライセンスを所持しモータースポーツに関わってきた立場から、自動車技術、技術者の態度に関して述べた。前段では自動車の技術動向と、注目すべき問題点について指摘した。専門の変速機技術、特にトロイダルCVT(写真)に関する解説した。今後の自動車技術としては、当然EV化が進展してゆくが、問題は二次電池のエネルギー密度が低く航続距離が短い事である。この当面の解決策がハイブリッド、燃料電池である。また、環境対応技術の結果、自動車がハイテク化し、暴走事故に繋がる欠陥を作りこむ危険性について、暴走事故統計から指摘した。後段では、モータースポーツの経験から国際化について話した。まず、国際ライセンスの取得基準が96年を境に緩和され、結果として、日本での国際競技開催が盛んになり、興行的にも成功している。国際化は重要である。技術士資格の国際化に反対する人たちは考えを改めてもらいたいと主張した。氏は、モータースポーツから多くの事を学び、その中でも技術者倫理に関しては、危険と隣り合わせの実戦の中で身につけてきたとの経験を話した。技術者教育を考える場合、モータースポーツは最適な教材だと結論づけた。

The lecturer's view to the engineering of motor vehicle formed by his experiences on the development of the transmission and the motor sports were mentioned. He pointed out the risk included in the high-technical EV based on the analysis of the statistics of the over-run accidents. He insisted on the importance of the internationalization not only on the motor sports field but also on professional engineer's field.

(宇津山 俊二 記)